

4 グループ運用資産残高の拡大

プライベートエクイティを含むSBIグループの運用資産残高は2021年3月末時点で4.4兆円を突破しており、遅くとも2026年3月までには10兆円超への拡大を目指しています。

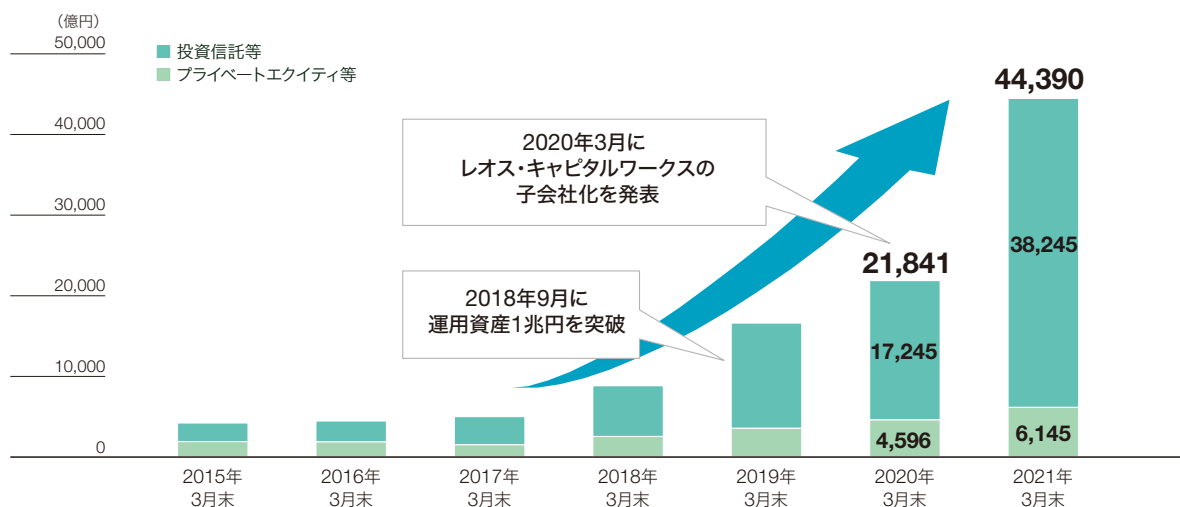
ベンチャーキャピタル事業においては、SBIインベストメントが2015年12月に設立したFintechファンド、2018年1月に設立したSBI AI&BlockchainファンドおよびSBIホールディングスからの投資を通じて、これまで計約1,195億円、171社（2021年4月末時点）のフィンテック領域などの企業へ投資してきました。2021年4月にはSBIインベストメントが設立した新ファンド、通称「SBI 4+5ファンド」を国内最大級である1,000億円規模で運用することを発表しました。同ファンドは従前までの投資注力領域であるフィンテック、AI、ブロックチェーンや、「Society 5.0 for SDGs」の実現にも寄与するコアテクノロジーとしての5G、IoT、ビッグデータに加え、「Industry 4.0」を推進するロボティクス、その他ヘルスケア（医療・介護）、インフラ（交通・エネルギー）、食品・農業などの幅広い産業における革新的技術・サービス領域を投資対象としています。2021年3月期は、SBIグループ投資先企業19社

が新規株式公開（IPO）を実現（他に3社がM&A）していますが、今後も主要ファンドからの投資先企業のIPO予定が豊富であることから、中長期にわたり高水準の利益貢献が期待できます。また、米国で近年急増している「特別買収目的会社（SPAC）」を通じた上場についても、投資先企業の米国Social Finance社がこの手法で2021年6月に上場を果たし、他にも複数の投資先企業が検討していることから、運営ファンドのパフォーマンス向上が期待されます。

資産運用受託事業においては、前述の通り地域金融機関からの資産運用受託額が順調に拡大しています。地域金融機関においては、有価証券運用の高度化・多様化に向けた外部委託の必要性が高まっていることから、今後も地域金融機関からの運用受託の拡大余地は大きいとみています。

また、海外で構築した銀行や証券を中心とする事業基盤を一層充実させ、内外の金利差や為替の変動を利用した効率的なアービトラージを推進することで、運用パフォーマンスの向上に繋げていきます。

プライベートエクイティを含むSBIグループの運用資産残高



※1 各月末日における為替レートを適用

※2 億円未満は四捨五入

※3 プライベートエクイティ等には現預金および未払込額は含まれていません。2017年3月末までは投資事業組合等による投資のうち、市場価格のない非上場株式等は取得原価（減損処理を行ったものは減損処理後の金額）で評価していますが、2018年3月末以降は公正価値で評価しています。

※4 投資信託等は投資信託と投資顧問の合算値ですが、SBIアセットマネジメントが運用指図を行っているファンドにおいて、モーニングスター・アセット・マネジメントが投資助言を行っている場合は、投資信託と投資顧問のそれぞれに計上しており、一部重複があります。